



小草池(西尾市)

十月二十二日(金)・二十三日(土)
ため池フォーラム in あいちを開催します。

目次

第1回 理事会・支会長会議・参与会	2	「日本の食料供給を支える社会資本である農地や農業用水を未来に繋ぐ重要性を問題提起する内容」の意見広告を掲載	8
叙勲・褒章	3	水土里ネットにおける積極的な広報活動の展開を!	9
「食」と「地域」の再生に向けた農業農村整備予算の確保を求める集会 開催	4	事業情報	10
あいち水土里情報利活用推進協議会 第5回通常総会 開催	5	□ 水土保全強化対策事業情報	
会員情報	6	お知らせ	11
□ 活動情報		□ 第13回愛知県土地改良事業物故功労者慰霊祭・第13回愛知県土地改良事業推進大会	
● 水土里ネット豊川市、水土里ネット音羽町、水土里ネット御津町、水土里ネット小坂井町		□ 「農」と水の故郷フェア'10	
● 大府市、東海市、水土里ネット愛知用水		□ 農地・水・環境のつどい	
□ 21世紀土地改良区創造運動		□ 第9回あいちの農業・農村フォトコンテスト募集	
● 水土里ネット南陽		2010ため池フォーラム in あいち(参加者募集中) …	12
● 水土里ネット豊川総合用水、松原用水、牟呂用水		残暑お見舞い …	12



みどり
水土里ネット愛知

新農村創造

発行所/愛知県土地改良事業団体連合会
名古屋市西区栄生一丁目18番25号
電話(052)551-3611(代)

平成22年度 第1回理事会開催

第1回理事会を、8月4日愛知県土地改良会館7階大会議室において開催した。理事会は始めに神谷会長の挨拶、続いて、参与としてご臨席の県幹部の方々を代表し、青木章雄農林基盤担当局長より挨拶をいただき、議事に入った。提出した下記議案は、いずれも原案どおり承認、可決された。



記

- 1 平成21年度事業報告並びに一般会計収支決算及び財産目録の承認について
- 2 水土保全強化対策事業推進委員会設置運営規程の一部変更について
- 3 愛知県土地改良事業団体連合会事務局規程の一部変更について
- 4 その他
 - (1) 第13回愛知県土地改良事業物故功労者慰霊祭並びに第13回愛知県土地改良事業推進大会開催について
 - (2) 第33回全国土地改良大会(長崎大会)について
 - (3) 予算確保に向けた要請活動を巡る動きについて

支会長会議開催

支会長会議を、6月16日愛知県土地改良会館6階第1研修室において開催した。会議には、神谷金衛会長(岡崎支会長)、長瀬保名古屋支会長、恒川宣彦一宮副支会長、川上万一郎幡豆支会長が出席された。会議は始め神谷会長より挨拶がなされ、続いて、神谷会長を座長に選任し、議事に移った。提出した下記議案については、それぞれ、資料に基づき説明が行われた後、活発な意見交換が行われた。

記

- 1 平成21年度事業報告並びに一般会計収支決算及び財産目録について
- 2 水土保全強化対策事業推進委員会設置運営規程の一部変更について
- 3 第13回愛知県土地改良事業物故功労者慰霊祭並びに第13回愛知県土地改良事業推進大会開催について

参与会開催

参与会を、8月6日愛知県土地改良会館6階第1研修室において開催した。

参与会は定款第31条「この会の業務を適切に行うため必要があるときは、参与若干人を置くことができる。」に基づき年数回参与会を開催し、諮問に応じていただくとともに特定事項について助言・指導していただいている。

参与会は伊藤専務理事の挨拶の後、参与を代表し、青木章雄農林基盤担当局長より挨拶をいただき、議事に入った。提出した議案は理事会に提出した平成21年度事業報告並びに一般会計収支決算及び財産目録等についてが協議された。

叙勲・褒章

平成22年度春の叙勲、褒章の栄えある受章者に、土地改良関係者から4名が選ばれました。

いずれも、土地改良事業の促進、発展に懸命に努力して来られた方であり、このたびの栄えある受章を心からお慶び申し上げ、益々ご壮健でご活躍されますようお祈りいたします。

ここに受章者をご紹介します。

旭日双光章



神谷 金衛 氏

水土里ネット愛知会長
明治用水土地改良区理事長

旭日双光章



佐藤 繁 氏

蟹江大滞悪水土地改良区理事長

黄綬褒章



竹内 武士 氏

知多市土地改良区理事長

農業用排水機県営移管期成同盟会 トピックス



知多市の(元)大草排水機場運転操作員
大江弘光氏が瑞宝単光章を
受章されました。

「食」と「地域」の再生に向けた 農業農村整備予算の確保を求める集会 開催



野中全国水土里ネット会長 激励の挨拶

6月7日、東京・港区虎ノ門のニッショーホールにおいて「食」と「地域」の再生に向けた農業農村整備の予算確保を求める集会が開催された。

この集会は、全国の農業者、農業農村の将来を心配する有識者、市町村長、水土里ネット関係者66名が呼びかけたもので、全国から約700名が駆けつけた。本県からは神谷本会会長を始め水土里ネット宮田用水、愛知用水、明治用水、矢作

川南部、矢作沿岸、豊川総合用水、本会の役職員15名が参加した。

集会では、呼びかけ人を代表して真野水土里ネットほっかい(北海道)理事長が「平成22年度予算は、地域の切望する農地の整備や農業水利施設の計画的な更新整備に遅れを伴うことになり、延いては我が国の食料自給率の低下につながる。「食」と「地域」の再生に向け、平成22年度の補正と23年度予算の確保を求めて、政権与党を始め関係要所に訴えていこうではないか。」と挨拶。続いて野中全国水土里ネット会長が「事業費削減は、食料自給率の向上に反するだけでなく、国民全体の不利益につながる。農業の長い歴史を子孫に引き継がなければならない。」と激励の挨拶を述べた。次に、水土里ネット秋田、水土里ネット明治用水、水土里ネット大井川、水土里ネット新潟から予算削減の影響や現状を踏まえた取組などが報告、本県の竹内清晴水土里ネット明治用水工務部長は、「疏通千里 利澤萬世」と題し、管理施設の劣化状況の写真を用い「新制度を創設し、整備の実施とその予算の確保を強く希望する。」と報告した。続いて、集会の名において行う決議文案が八坂杵築市長(大分県)より読み上げられ、満場一致で採択、最後に吉本水土里ネット豊田理事長(山口県)の音頭で「ガンバロウ!」を三唱して集会を締めくくった。



竹内水土里ネット明治用水工務部長による報告



集会に駆けつけた関係者



ガンバロウ三唱

集会終了後、農業農村整備予算の確保について、財務省、総務省、農林水産省、民主党及び地元選出の国会議員等へ要請書を提出し要請活動を実施した。(本県は、神谷会長が他の10県水土里ネット代表者と共に農林水産省へ要請活動を実施した。)

要 請 書

政府は、3月末新たな食料・農業・農村基本計画を閣議決定し、「食」と「地域」の再生に向けて、新たな計画のもと、食料・農業・農村政策を国家戦略として位置付け、政府一丸となって政策を推進していくことを表明されたところであり、我々としても大いに期待するものであります。しかし、具体的な政策を推進するために必要な予算を見れば、農業農村整備事業費は前年度に比べ4割を下回る大幅な削減となっております。

農地や農業水利施設は食料生産の基礎として不可欠なものであり、農地の改良や施設の更新が円滑に推進されなければ、食料生産の減少や、転作作物への転換が滞り、食料自給率の向上に支障を来すばかりでなく、農村地域の災害の誘発等の増加により農業・農村が成り立たなくなると危惧されるところであります。このため、現地の人々から様々な不安の声が挙がるとともに、多くの有識者からも、国民全体の不利益につながるとの指摘がなされているところです。

農業・農村は、国の大本であり、日本の豊かな国土や自然環境も、農業・農村が健全であって初めて維持されるものです。政府及び政権与党として、日本の農業・農村を下支えする農業農村整備の厳しい状況を打開いただくよう、下記事項の実現を強く要請するところであります。

記

- 1 「食」と「地域」の再生に向け、農業農村整備事業の推進に必要な22年度追加予算と23年度における予算の確保を図ること
- 2 農業水利施設は食料生産に不可欠な基本インフラであるとともに、農業農村の多面的機能の発揮にも重要である。国は、この農業水利システムを安定的に機能させるため、基幹的施設を中心に積極的に関与し、適切な保全管理を行うとともに計画的な更新・整備を推進すること
- 3 食料自給率の向上のためには、水田を有効活用した麦、大豆の生産拡大等を重点的に進める必要がある。このため、水田汎用化に向けた排水対策などの農地の整備を国策として推進すること

平成22年6月7日

「食」と「地域」の再生に向けた農業農村整備予算の確保を求める集会

あいち水土里情報利活用推進協議会 第5回通常総会 開催

6月10日、愛知県土地改良会館7階大会議室において、あいち水土里情報利活用推進協議会第5回通常総会を、総数181会員のうち、162会員(うち書面79会員)並びに堤 寛治東海農政局整備部地域整備課長、八木孝司愛知県農林基盤担当局農地計画課長始め、局・県の関係機関から多くの出席を得て開催した。

総会は、伊藤 明会長(水土里ネット愛知専務理事)の「今年度末で国の補助事業を受けた施設整備等が完了するため、遊休農地対策や担い手育成の円滑化が図れるように地図情報の充実と個人情報に留意して総合的に利用できる体制整備に努めたい。また、来年度から水土里情報システムの本格的な稼働となることから、加入促進を図り、利用者の負担軽減に努めたい。」との挨拶後、来賓の皆様から挨拶をいただいた。

引き続き、平成21年度事業報告及び収支決算承認、平成22年度事業計画及び収支予算の議案審議に入り、全て原案どおり可決承認された。その後、「水土里情報利活用促進事業の整備状況」「今後の水土里情報システムのスケジュール」「運用体制」「運営管理に係る費用負担の考え方」についての説明と、「水土里情報システムの利活用のデモンストラーション」を実施し総会は閉会した。

活動情報

【水土里ネット豊川市、水土里ネット音羽町、水土里ネット御津町、水土里ネット小坂井町】

5月28日、豊川市内にある4つの水土里ネットの合併を推進する豊川市管内土地改良区合併推進協議会の設立総会が、豊川市勤労福祉会館で開催された。

豊川市には豊川と一宮の水土里ネットが合併して出来た水土里ネット豊川市と、合併前の音羽町、御津町、小坂井町の水土里ネットの計4水土里ネットがあり、総会には4水土里ネットの役職員等約40人が出席し、より効率的な運営、経費縮減などを目的に2011年6月の合併を目指すこととなった。

設立総会では、合併推進協議会の規約、事業計画などが決定したほか、会長に、北川力水土里ネット豊川市理事長、副会長に宇都野 武水土里ネット音羽町理事長が選任された。合併すると、新しい水土里ネットは、地区面積2,561ha、組合員数6,972人となる予定です。

8月20日には、合併予備契約が締結された。今後、各水土里ネットの合併の議決を経て愛知県に合併認可を申請する計画です。



【大府市、東海市、水土里ネット愛知用水】

6月1日～21日に大府市役所ロビーで、8月16日～27日に東海市役所市民ギャラリーで、来年9月30日に愛知用水通水50周年を迎える前に大府市と東海市がそれぞれ主催し、水土里ネット愛知用水、水資源機構愛知用水総合管理所が共催で、先人たちの偉業と用水の恵みを紹介する「愛知用水通水50周年パネル展」を開催した。

愛知用水の発案者の一人、元教師浜島辰雄さんが手書きした計画概要図を複製で紹介し、その図を囲んで話し合っている写真などを展示、年表や当時の新聞などもあり、訪れた人たちが大事業の足跡をたどっていた。

21世紀土地改良区創造運動

【水土里ネット南陽】

5月10日、農地・水・環境保全向上対策の活動組織「茶屋新田地域資源保全隊」と合同で、地元の南陽小学校の全児童を対象とした、1年生と2年生のさつま芋苗植付け、3年生から6年生の田植え体験を実施した。

小さな児童たちのさつま芋苗植付けは、1年生と2年生の2回に分け、水土里ネットの役員が植え方を手



取り説明しながら実施、高学年の田植えは各学年ごとに4回に分け、資源保全隊の布目会長が、植え方の説明を実施した。裸足で水田に足^{はだし}を踏み入れる児童の「足が抜けない。」「動きにくい。」といった声が飛び交っていたが、それでも児童たちは、10人ほどが1列になり、一本一本丁寧に、「もちごめ」の苗を植え、「おいしいお米ができるといいな。」と願いを込めていた。28日には、5年生の児童たちが田植えをした田んぼの畦畔の草刈を実施、7月には児童たちがつくった案山子3本が立てられた。10月には、さつま芋の収穫、稲刈を実施する。水土里ネットは、年間を通して、地域の子どもたちに農業の大切さ、楽しみを体験してもらいながら、子どもたちに農業農村環境を将来へ引き継ぐ心が育つことを期待している。

7月16日、「平成22年度21創造運動大賞東海地方選考委員会」が、能楽堂会議室で開催され、山田理事長、布目副理事長、布目茶屋新田地域資源保全隊代表、安達事務員さんの4名が出席、安達さんのパワーポイントを利用した20分ほどのプレゼンテーションの後、松本委員長、大野委員、飯尾委員、松下委員からそれぞれ質問があった。惜しくも、水土里ネット南陽は、今回は地方大賞を受賞することが出来なかったが、各委員からは、水土里ネット南陽の「限られた農地を守り、次世代に引き継ぐ」様々な取組に対して賛辞が送られ、今後一層の活躍と地方大賞の再チャレンジが期待された。


【水土里ネット豊川総合用水、松原用水、牟呂用水】



「水の週間」(8月1日～7日)の開催行事として、水が育てる愛と知の風土をテーマに「あいちの農業用水展」を愛知県図書館において、愛知県主催、水土里ネット愛知、(財)愛知・豊川用水振興協会、水土里ネット豊川総合用水、水土里ネット松原用水、水土里ネット牟呂用水共催で、7月9日から8月11日まで開催した。

この「あいちの農業用水展」は、農家を始めとする先人の努力の積み重ねにより守り育てられてきた「農業用水」を中心に、「水」の重要性について広く一般の方々の関心と理解を深めてもらおうと、平成3年度から県内各地で開催し、愛知県図書館でのパネル展示は、今年で3年目です。

今年度は、1階ロビーに、豊川用水、松原用水、牟呂用水、宮田用水、木津用水、明治用水、枝下用水、木曾川用水、愛知用水、矢作川用水などの農業用水や水田魚道に関するパネルなどを展示、2階ロビーに、『豊川用水の特別展示』として豊川用水のあゆみや豊川流域の洪水の歴史、豊川の渇水の歴史、松原用水通水430年記念誌、牟呂用水年表の文献や写真パネルなどと牟呂用水の人造石工法(長七たたき)に使用された原料土を展示した。

 水土里ネットや市町村の様々な活動(21世紀土地改良区創造運動の活動に限られません。)を掲載するコーナーです。多数の情報をお待ちしております。 総務部企画広報課 TEL 052-551-3613

「日本の食料供給を支える社会資本である農地や農業用水を未来に繋ぐ重要性を問題提起する内容」の意見広告を掲載

食料の生産基盤を未来に繋ぐ意見広告プロジェクト(全国水土里ネット内)は、日本農業の未来を心配する声をより多くの人々に届けるため、また、予算確保を求める活動の一環として、「日本の食料供給を支える社会資本である農地や農業用水を未来に繋ぐ重要性を問題提起」する内容の意見広告を、7月27日の読売新聞全国版に掲載した。

2010年(平成22年)7月27日(火曜日) 読売新聞 6

意見広告

取水施設の修繕工が本格

用水路の壁が倒壊

用水パイプが破損

日本の食料を支える社会資本が失われつつあります。

日本の食料生産を支える、農地と農業用水。
農地がきちんと整備され、そこに適切な農業用水が届けられることで、食料生産が成り立っています。

主に江戸時代からの400年に農家や為政者などによって営々と築かれた農業用水路は、水路延長だけでも地球10周分(約40万km)にのびます。これらの農業用水路は農業用水を供給するだけでなく、洪水防御・景観の形成・生態系の保全など多くの役割を果たしており、国民にとって貴重な財産です。多くの施設は戦後の食料増産期に近代化されましたが、既に50年以上が経過し老朽化が著しく、国が造成した基幹的な水利施設についても、約4分の1が緊急の改修や更新を必要としています。例えば、基幹的な農業用排水路等約49,000kmのうち約12,000kmが、農業用排水機場約2,800箇所のうち約1,800箇所が、その耐用年数を超過しています。

しかし、公共事業が大幅に削減され、こういった施設の改修・更新が困難になっています。このまま老朽化が進むと、水路としての機能が失われ、食料自給力を維持できない状況に陥ってしまいます。

全国の農業用水路や水利施設の約4分の1が耐用年数を迎え、改修や更新を必要としています。

農業用排水路等(A)・農業用排水機場(B) 耐用年数を超過している割合

資料:国土交通省「農業用水路等施設等実態調査」(国土交通省農林水産部農水政策課) ※平成21年調査結果に基づく

安全で安心な食料生産を支える農地と農業用水、 私たちは国民として真剣に議論すべきではないでしょうか？

食料の生産基盤を未来に繋ぐ意見広告プロジェクト

私たちは、安全・安心な食料の供給や豊かな「地域」社会の再生のために、農地や農業用水を未来に繋いでいかなければならないと考えています。そのために賛同を呼びかけ、頂いた意見をとりまとめ、国会・政府に要請する等の活動を行っています。この意見広告もプロジェクトに賛同いただいた方々からの賛同金によって支えられています。あなたもぜひ賛同いただけることを願っています。

賛同金口座(振込み) 銀行 振替口座 00180-8-200700 加入者名「意見広告プロジェクト」 <プロジェクト> 林良博 東京農業大学 農学部長

プロジェクトについて、詳しくは
<http://www.inakajin.or.jp/shoku-mirai/>

「食料の生産基盤を未来に繋ぐ意見広告プロジェクト」 東京都千代田区平河町2-7-4 TEL.03-3234-5480

意見広告とは、個人や団体が政治問題や社会問題などについて、自らの意見や主張を表明する目的で作成した広告である。宣伝メディアとしては、商業的利用ではないことが特色である。 出典：フリー百科事典「ウィキペディア」

水土里ネットにおける積極的な広報活動の展開を!

水土里ネットの活動や農業・農村に関する様々な情報を広く地域の人々に発信しましょう!

情報化社会といわれる現在、ジャンルを問わず広報活動の重要性が非常に高まっています。それは、長い間農業・農村を守り続けてきた、私たち水土里ネットにも言えます。

この大変な情報化時代、私たちの周りでは様々なメディアが発達しています。**自己主張をしないと周りから振り向いてもらえない。そんな現代です。**そういう意味で、自分たちの良さを自分たちがしっかりPRする、アピールすることが大変必要な時代になってきています。全国の水土里ネットが平成13年度から取組んできました「21世紀土地改良区創造運動」は、そんな背景からスタートしています。

広報活動は、従来は組織(団体)がその存在を誇示するということが多かったわけですが、今やそれで動いていく時代ではありません。きちんと自分たちの組織の機能、存在価値を正しく理解してもらい、その活動を支持してもらうということのための広報活動というように広報活動の目的は変わってきています。

県内では、「土地改良区だより」や「土地改良区の概要」の発行などを通じて、水土里ネットの組合員や地域の方々へ、水土里ネットの活動状況や農業・農村に関する様々な情報の発信など積極的な広報活動を展開している水土里ネットもあります。このような広報活動の展開は、それぞれの地域における水土里ネットの必要性を再認識するとともに、これからの農業・農村について考える機会となるはずです。

まずは、「土地改良区だより」から、豊かな農業・農村づくりのために、地域の人々に水土里ネットの声を届け、そしてその後、更なる新たな一步を踏みだしてはいかがでしょうか。

水土里ネット愛知は、「水土里ネット」のPR、アピールに今まで以上に取組んでまいります。



「土地改良区だより」「土地改良区の概要」の一部を掲載しました。

水土保全強化対策事業情報

◆平成22年度愛知県管理円滑化事業推進委員会

6月1日、本会6階第1研修室において愛知県管理円滑化事業推進委員会を開催し、次の議案について協議し、承認された。

- 1 平成21年度実績報告
- 2 平成22年度実施計画

◆平成22年度連絡調整会議

6月10日、本会6階第1研修室において連絡調整会議を開催した。愛知県農地計画課、農地整備課、各農林水産事務所建設課のアドバイザーに出席いただき、平成22年度新規(34期生)適正化事業実施計画調書、平成22年度適正化事業実施計画調書、及び平成23年度新規(35期生)適正化事業実施要望調書等について協議し、土地改良施設の維持管理、事業の拡充強化について意見交換がされた。



連絡調整会議

◆平成22年度愛知県換地等強化事業推進委員会

6月17日、本会6階第1研修室において愛知県換地等強化事業推進委員会を開催し、次の議案について協議し、承認された。

- 1 平成21年度事業実績報告並びに収支決算(土地改良換地等促進事業・土地改良相談事業関係分)
- 2 平成22年度事業実施計画並びに収支予算(土地改良換地等強化事業関係分)

◆平成22年度換地事務「新規担当者並びに換地計画実務」研修会

8月25日、26日、27日、本会7階大会議室において換地事務「新規担当者並びに換地計画実務」研修会を開催した。東海農政局土地改良管理課、名古屋法務局、愛知県農地計画課、農業振興課から講師を招き、市町村、水土里ネット、コンサル等の換地技術者が出席した。

◆日本政策金融公庫農業基盤整備資金の金利改定

日本政策金融公庫の農業基盤整備資金の貸出金利が、5月26日以降下記のとおり改定された。

	5月26日	6月18日	7月22日	8月18日
県営補助残	1.75%	→ …… →	1.55%	→ 1.45%
団体営補助残	1.60%	→ …… →	1.40%	→ 1.30%
団体営非補助	1.60%	→ …… →	1.40%	→ 1.30%
災害復旧 5年以内	0.75%	→ 0.70%	→ 0.60%	→ 0.55%
10年	0.95%	→ …… →	0.85%	→ 0.75%
15年	1.45%	→ 1.35%	→ 1.25%	→ 1.15%
20年	1.60%	→ …… →	1.40%	→ 1.30%

詳細については、名古屋支店農林水産事業農業食品第二課(TEL052-582-0745)にお問い合わせください。

第13回愛知県土地改良事業物故功労者慰霊祭・ 第13回愛知県土地改良事業推進大会

開催日時 平成22年11月15日(月) 慰霊祭/午後2時
推進大会/午後3時
開催場所 真宗大谷派名古屋別院

● 農と水の故郷フェア'10 開催

～田畑の水はどこからくるの?～(クイズ形式のウォークラリー)

各種パネル展示や、参加型イベント等により、県民に、農業と食、農地や農業用水の役割、県内の農業用水に関する一連の用水系統、農業用水施設などを保全・整備する農業農村整備事業、水源地域の現状・課題などを一体的に理解してもらうことを通じ、農業・農業用水・水源地域の大切さなどをPRします。

- 開催期間** 平成22年9月18日(土)～27日(月) ※9月21日(火)はデンパーク休園日のため開催していません。
- イベントDAY** 平成22年9月25日(土) 午前9時30分～午後3時
- 開催場所** 安城産業文化公園 デンパーク ※デンパークの入園には、入園料が必要です。
- 主催** 農と水の故郷フェア実行委員会(愛知県、水土里ネット愛知、水土里ネット愛知用水、水土里ネット明治用水、(財)愛知・豊川用水振興協会)

■ 第13回あいちの農業・農村パネル展～水土里ネットってなんだろう?～も開催し、地域の資源としての農業用水関連施設を連綿と管理し、保全してきた水土里ネットの役割や位置づけをPRします。

● 農地・水・環境のつどい 開催

豊かな農村の地域資源を地域みんなで守る取組と環境にやさしい農業へ取組む「農地・水・環境保全向上対策」における優良な活動組織の表彰会と講演会を開催します。

- 開催日時** 平成22年10月16日(土) 午後1時～午後3時45分
- 開催場所** 愛知県女性総合センター(ウィルあいち ウィルホール)
- 主催** 愛知県 **共催** 水土里ネット愛知、愛知県農業協同組合中央会

● 第9回あいちの農業・農村フォトコンテスト 募集

愛知県の活力ある美しいむらづくりのための農業農村整備を推進し、すばらしい、あいちの農業・農村を広く一般に紹介するため、広報キャンペーンの一環として作品を募集します。

- テーマ** 「土地改良施設と水土里の四季」
- 賞**

水土里のフォト大賞	1点	(賞状、副賞3万円)
水土里のフォト優秀賞	2点	(賞状、副賞1万5千円)
水土里のフォト入選	10点	(賞状、副賞5千円)
農地・水・環境保全向上活動特別賞	3点以内	(賞状、副賞1万円)
水土里のフォト参加賞	参加者全員	(記念品)

応募締切 平成22年11月30日(当日消印有効)

■ 詳細は、水土里ネット愛知ホームページ(<http://www.aichi-doren.or.jp/>)をご覧ください。

2010 ため池フォーラム in あいち 開催

募集中

はぐく いのち
ため池が育む生物と暮らし ～見つめよう 生き物の多様性～

多数の参加を
お待ちしております。

開催日時・場所

本会議

参加料：2,000円

10月22日(金) 13:30～17:30

ウィルあいち ウィルホール

交流会

参加料：5,000円

10月22日(金) 18:00～19:30

アイリス愛知

現地見学会

参加料：4,000円

10月23日(土) 9:00～17:00

県内4コース(尾張、海部、知多、西三河コース)

主催：2010ため池フォーラムinあいち実行委員会(愛知県、水土里ネット愛知)

後援：農林水産省、独立行政法人水資源機構中部支社、全国水土里ネット、
全国ため池等整備事業推進協議会、全国農村振興技術連盟、中日新聞社

連携協力：生物多様性条約第10回締約国会議支援実行委員会

応募方法、応募先などの詳細は、8月上旬に各団体に郵送でお送りしていますのでご確認ください。不明な点がございましたら水土里ネット愛知総務部(担当:萩野、坪内、水谷) TEL 052-551-3611 にお問い合わせください。

本会議次第

開会の辞：稲垣隆司ため池フォーラム実行委員会委員長

あいさつ：愛知県、農林水産省、全国ため池等整備事業推進協議会

報告：「ため池百選」農林水産省農村振興局防災課

合唱：「ため池賛歌」愛知高等学校グリークラブ

基調講演：「楽しさ溢れるため池探検」鉄崎幹人氏

事例発表：「かいどり大作戦」有脇の農地・水・緑を守る会

パネルディスカッション：「ため池が育む生物と暮らし」

大会宣言

次回開催県あいさつ：岩手県

閉会あいさつ：青木章雄愛知県農林基盤担当局長

現地見学会 コース

尾張コース：入鹿池、犬山里山学センター、

COP10会場(愛・地球博記念公園会場)

海部コース：三ツ又池、長良川河口堰、水産試験場弥富指導所、

COP10会場(白鳥会場)

知多コース：南廻間池(池干し見学)雨天の場合は二ツ池セレクトナ、

半田市立博物館、ミツカン酢の里、COP10会場(白鳥会場)

西三河コース(北)：豊田市自然観察の森、トヨタ会館、三好池、

COP10会場(愛・地球博記念公園会場)

西三河コース(南)：小草池(西尾いきものふれあいの里)、トヨタ会館、

COP10会場(愛・地球博記念公園会場)

残暑お見舞い申し上げます。

水土里ネット愛知

会長 神谷 金衛

副会長 浜田 一徳

専務理事 伊藤 明

代表監事 白木 実夫

外役職員一同



南知多町豊丘